

諸外国における行政管理の実態把握に関する
調査研究報告書

—IIAS 国際大会（南アフリカ・ベラベラ大会）における発
表論文等の収集、分析・整理—

令和3年10月

一般財団法人 行政管理研究センター

目 次

1 学会及び大会の概要	
(1) 国際行政学会について	1
(2) IIAS 南アフリカ・ベラベラ大会概要	3
(3) 研究大会プログラム	4
2 研究大会報告内容	6
(1) 全体テーマ	6
(2) 全体会合	6
(3) 分科会	8
(4) 報告内容の分析と我が国の行政管理への示唆	10

1 学会及び大会の概要

(1) 国際行政学会について

国際行政学会 (International Institute of Administrative Sciences: IIAS、以下「IIAS」)¹は、行政学に関する学術及び実務にわたる国際的な研究組織である。

行政学に関する最初の国際的会合は 1910 年にブリュッセルにおいて開催された万国博覧会にまで遡る。現在の IIAS としての組織形態として整備されたのは 1930 年であり、第 2 次世界大戦の戦禍により崩壊状態となったものの、1947 年 7 月にスイスのベルンにおいて再開され、現在まで IIAS として続いている。IIAS の本部、事務局はベルギーのブリュッセルに置かれている。2019 年 6 月 18 日の IIAS 総会における投票により、第 19 代会長としてバーレーン行政研究所長のラッド・ベンシャム博士 (Dr. Ra'ed M. BenShams) が選出された²。会長任期は IIAS2019 年シンガポール大会終了時から 3 年間である。

IIAS は、一般の国際学会のように各国の研究者・実務家が個人単位で参加するのではなく、国家等組織単位で会員となる仕組みを取っている³。会員は国家会員 (Member State)、政府国際機関 (Governmental International Organization)、非政府国際組織 (Non-Governmental International Organization)、国内委員会 (National Sections)、国際委員会 (International Sections)、団体会員 (Corporate Members)、名誉会員 (Honorary Members) の 7 つの分類がなされている。2021 年現在、地域別の参加国数は以下のとおりである。また、内訳が示された会員種別にみると、国家会員 30、国内委員会 18、団体会員 58 (主に研究機関) となっている。

【IIAS 国家会員】

オーストリア、バーレーン、ベルギー、ブラジル、カメルーン、中華人民共和国、キプロス、ドミニカ共和国、エチオピア、ドイツ、ハンガリー、インド、インドネシア、イタリア、日本、大韓民国、レバノン、ルクセンブルク、マルタ、モロッコ、ナミビア、ポーランド、カタール、サンマリノ共和国、サウジアラビア、

¹ IIAS ウェブサイト <http://www.iias-iisa.org/> (2021 年 10 月 25 日最終確認。以下の URL も同様。)

² IIAS Facebook サイト

https://www.facebook.com/IIAS.IISA/?hc_ref=ARQITo4QtdOX_rP5Rgb5Z7yHqWoYDkcKWYj17LlkG49Ok-gOZAn91L-kvor2P1ole78&fref=nf&__xts__%5B0%5D=68.ARChmIec2liUUIOyIfXYCbTKaghlYxZoi8LyX4emQfZO5-G9iS5YQ3h_SLWguvFDY2fZHGyK0UFLRrOHEXnQg7AHhsq6o2FqcmWu408k2laWjIKU7m_szTqMh0BpzO2bFvXyfa0QqFpOFGzOMo-MIKHI3c1S_xlX35GfGamd-Otw5iXnJajonTbICgZmVYr1tBymr9s8XjADl3548pyPaHwjK4nofsqdLZWZhNVcoBXjlv5L3O6sWY9fSbWmsDuTG9zcllu0zbqokR8QtsneEj2qiZmDuLnyYnanmsGMSleZ3gknTZbKzBRIQnCqOKnJwEXUh_eBzY-7Z2EPBX_ewiVH_A&__tn__=kC-R

³ 参加国数は、IIAS ウェブサイト <http://www.iias-iisa.org/members/> による

南アフリカ、スペイン、スイス、チュニジア、バチカン

出典：IIAS 会員一覧より行政管理研究センター作成

我が国については、日本国政府が国家会員（Member State）として登録され、会員機関（Member Institute）として総務省が登録されている。また、国内委員会（National Section）として IIAS 日本国内委員会が、団体会員（Corporate Member）として日本行政学会、日本公法学会及び一般財団法人行政管理研究センターが、それぞれ登録されている⁴。

また、IIAS の運営機構である管理委員会（Council of Administration）の 2019 年からの現行体制では、縣公一郎早稲田大学教授がアジア代表（南アジア・太平洋）の副会長に選出され、城山英明東京大学大学院教授が研究諮問委員に就任している。その後、2020 年 12 月 18 日の管理委員会において城山委員は研究諮問委員会の副委員長に指名されている。現在の執行体制（2019-2022）は以下のとおりである⁵。

表：IIAS 執行体制（2019-2022）

役職	氏名（国籍）
会長	Ra'ed Mohammed BenShams (Bahrain)
財政委員長	Jörg Bogumil (Germany)
研究諮問委員長	PS Reddy (South Africa)
副会長（南アジア・太平洋）	Koichiro Agata (Japan)
副会長（西欧）	Sabine Kuhlmann (Germany)
副会長（アフリカ）	Rachid Melliani (Morocco)
副会長（東アジア）	Yu Xing (China)
学会誌編集長	Andrew Massey (United Kingdom)
出版委員長	Paul Joyce (United Kingdom)
副会長（中東）	Abdulahman Al-Arifi (Saudi Arabia)
委員	Diogo Godinho Ramos Costa (Brazil)
委員	Edoardo Ongaro (Italy)
委員	V Srinivas (India)
委員	Jaeyoung Lee (Korea)
委員	Fatima Minguez Llorente (Spain)

⁴ 各会員は、会長選挙等において会員ステータスに応じた票数分の投票権を有している。

⁵ IIAS ウェブサイト “Council of Administration”, <https://www.iias-iisa.org/page/Council%20of%20Administration> 掲載順は同サイトの記載順。

なお、IASIA（International Association of Schools and Institutes of Administration）、EGPA（European Group for Public Administration）、LAGPA（Latin American Group for Public Administration）、AGPA（Asian Group for Public Administration）はいずれも IIAS の下部組織である。

委員	Anatole Maïna (Cameroon)
委員	Reto Steiner (Switzerland)
IASIA 会長	Qing Dong (China)
EGPA 会長	Jean-Michel Eymery Douzans (France)
LAGPA 会長	Ruben Dario Echeverry (Colombia)
AGPA 会長	Eko Prasajo (Indonesia)
委員	Alexander Balthasar (Austria)
前会長	Geert Bouckaert (Belgium)
事務局長	Sofiane Sahraoui (Tunisia)

(2) IIAS 南アフリカ・ベラベラ大会概要

2021年のIIASの研究大会は、南アフリカ共和国北部のベラベラ市において開催された。大会の概要は以下のとおりであり、5日間にわたり各種研究報告が行われるとともに、総会及び管理委員会等運営に関する会議が開催された⁶。当初はベラベラの保養地 ATKV Klein Kariba Resort における対面及びオンライン上でのハイブリッド方式で行われると予告されていたが、COVID-19の影響がまだ収まっていないことから、2020年の90周年記念大会に引き続き2年連続してオンラインにて開催されることとなった。今回の大会はIIASとその構成団体であるIASIAとの共同大会として開催され、主催者には両団体の他に南アフリカ大学 (University of South Africa) が名を連ねている⁷。また、プライスウォーターハウスクーパーズ社 (PricewaterhouseCoopers Inc. ⁸)、ベラベラ市 (Bela Bela Municipality⁹)、ウォーターバーグ県 (Waterberg District Municipality¹⁰)、リンポポ州 (Limpopo Province¹¹) がパートナーとして、リンポポ州観光局 (Limpopo Tourism Agency¹²) が大会スポンサーとして名を連ねている¹³。

【IIAS 南アフリカ・ベラベラ大会概要】

日程	2021年7月26日(月)～7月30日(金)
----	------------------------

⁶ IIAS2021年大会ウェブサイト <https://www.iias-conference2021.org/>

⁷ 大会ウェブサイトに掲載された開催地紹介ビデオから判断すると、当初2020年にベラベラで予定されていたIASIAの大会が延期される形でのIIASとの共同開催となったようである。 <https://iias-iisa.org/events/14/IASIA%20CONFERENCE%20AV.mp4>

⁸ PricewaterhouseCoopers South Africa, <https://www.pwc.co.za/en.html>

⁹ Bela Bela Municipality, <http://www.belabela.gov.za/>

¹⁰ Waterberg District Municipality, <http://www.waterberg.gov.za/>

¹¹ Limpopo Province <http://www.limpopo.gov.za/>

¹² Limpopo Tourism Agency, <https://golimpopo.com/>

¹³ 南アフリカの地方制度は州、県(郡と訳す資料もある)、市の三層構造となっている。

開催地	オンライン (Zoom) 南アフリカ共和国リンポポ州ウォーターバーグ県ベラベラ市 (Bela Bela, Waterberg District Municipality, Limpopo Province, South Africa) (当初の開催予定地及びホスト所在地)
参加者	詳細不明 ¹⁴

出典：行政管理研究センター作成

(3) 研究大会プログラム

今回の研究大会では、「行政と第4次産業革命 (Public Administration & Industry 4.0/4IR)」を共通テーマとし、昨年度からの世界的課題である COVID-19 対策についても多く取り上げられた。研究大会のプログラムは以下のとおりであった。

【研究大会プログラム】

第1日 7月26日(月)	
09:00-10:30	開会式 議長: Qing DONG, China National Academy of Governance 議長: Ra'ed Mohammed BENSAMS, Bahrain Institute of Public Administration モデレーター: César ALFONZO, IASIA 挨拶: Stanley Mathabatha, Premier, Limpopo Province 挨拶: Prof. Puleng LenkaBula, UNISA Principal and Vice-Chancellor 挨拶: Mr K A Dipela, Chairperson, Limpopo Tourism Agency Board 挨拶: Dong Qing, IASIA President 挨拶: Ra'ed BenShams, IAS President 報告: Prof. Werner Webb, Conference Rapporteur
11:00-12:30	全体会合: 行政と第4次産業革命 (Public Administration & Industry 4.0/4IR) 議長: Mathukhu Thomas MOGALE, UNISA, South Africa モデレーター: Steve TROUPIN, IAS, Belgium 討論者: Mashupye Hebert MASERUMULE, Tshwane University of Technology, South Africa 基調講演: Keynote Address by Honourable Senzo Mchunu, Minister for the Public Service and Administration, Republic of South Africa
14:00-15:30	分科会
16:00-17:30	分科会
第2日 7月27日(火)	
09:00-10:30	分科会

¹⁴ 例年大会事務局から大会参加者数の報告があるが、今大会に関する報告は2021年10月時点ではなされていない。なお、2021年4月時点での大会での報告申込者は394名である（これは大会における研究報告申込者数であり、実際の参加者数とは異なる）。2021年4月付 IAS 事務局発行ニュースレター。

11:00-12:30	<p>全体会合：大陸間フォーラム (Intercontinental Forum)</p> <p>議長：Shepherd MALEFANE, University of South Africa, South Africa</p> <p>モデレーター：Fabienne MARON, IIAS, Belgium</p> <p>報告者：Prof. Hideaki Shiroyama, University of Tokyo;</p> <p>報告者：Manchuan WANG, Vice President, China Society of Administrative Reform;</p> <p>報告者：Dr. Julia Puaschunder, The New School,</p>
14:00-15:30	分科会
16:00-17:30	分科会
第 3 日 7 月 28 日 (水)	
09:00-10:30	分科会
11:00-12:30	<p>全体会合：Braiban Lecture</p> <p>講演者：John-Mary KAUZYA, “Africa, Global Governance, Public Administration and Leadership”</p>
13:30-15:00	分科会
16:00-17:30	分科会
第 4 日 7 月 29 日 (木)	
09:00-11:00	<p>全体会合：国連経済社会局セッション (UNDESA Opening Session): Public Service Innovation and e-Government for SDGs in Africa</p> <p>議長：Ra'ed Mohammed BENSHAMAS,</p> <p>議長：Busani NGCAWENI,</p>
09:00-16:00	<p>PwC ワークショップ：Public Administration in the Fourth Industrial Revolution</p> <p>議長：Werner WEBB, UNISA, South Africa</p>
11:00-12:30	UNDESA 全体会合
14:00-17:30	UNDESA 全体会合
第 5 日 7 月 30 日 (金)	
09:00-10:30	<p>IASIA60 周年記念会合</p> <p>議長：Qing DONG,</p> <p>モデレーター：César ALFONZO, IASIA,</p>
11:00-12:30	<p>閉会式</p> <p>議長：Sofiane SAHRAOUI, International Institute of Administrative Sciences, Belgium</p> <p>大会報告：Rapporteur-General Prof. Werner Webb (UNISA)</p> <p>謝辞：Waterberg District Municipality Bela-Bela Mayor Jemeriah Ngobeni</p> <p>プロジェクト報告：Prof. Liza Van Jaarsveldt (UNISA)</p> <p>謝辞：Prof. Thomas M. Mogale (UNISA)</p> <p>謝辞：Dr. Sofiane Sahraoui, Director General (IIAS)</p> <p>2022 年大会紹介</p>

出典：大会ウェブサイト¹⁵により作成

¹⁵ 大会ウェブサイト「program」。 <https://www.iias-conference2021.org/program.php>

2 研究大会報告内容

(1) 全体テーマ

今回の全体テーマは、「行政と第 4 次産業革命 (Public Administration & Industry 4.0/4IR)」である。

近年の IIAS の大会では、2017 年のエクサン・プロヴァンス大会では「移民・難民問題」がテーマとして議論され、2018 年のチュニス大会では、「統治機構のレジリエンス (弾力性) : 努力、適応、維持」¹⁶が議論され、2019 年のシンガポール大会では「効果的で、説明可能な、包括的ガバナンス (Effective, Accountable and Inclusive Governance)」、2020 年の 90 周年記念大会では、「気候変動対策に向けたパブリック・ガバナンス (Public Governance for Climate Action)」が議論されるといった形で、行政が直面している課題についての議論が交わされてきた。行政は様々な環境の変化に対応していくことが常に求められる。2015 年の国際連合における持続可能な開発サミットにおいて採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」は、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、17 の目標と 169 のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」¹⁷を提示するが、SDGs の達成に向けて、政府及び政策立案者は第 4 次産業革命を可能にするメカニズムの導入が必要であるとされる。本大会では、こうした試みに政府がどのように対応すべきかなどについて議論が交わされた。

また、本大会の開催にも大きな影響を与えている COVID-19 対策に関しても、その対策等に関する報告がなされた。いずれも単に行政内部の管理に留まる問題ではなく、行政と社会とそれぞれの機能を果たすことでのみ解決につなげることが可能となる課題であり、行政に関する学術と実務の統合的な議論を行ってきた IIAS においては当然のテーマ設定であり、COVID-19 に対して行政がどのように対応していくべきかという課題についても検討が行われた。

(2) 全体会合

本大会では開会式をはじめとするいくつかの全体会合がもたれた。開会式の他、以下のような全体会合が開催された。

・ 開会式

¹⁶ IIAS チュニス大会ウェブサイトによる。

<https://www.ias-congress2018.org/>

¹⁷ 「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」及び「持続可能な開発目標 (SDGs)」については、以下を参照。

国際連合広報センター：

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

開会式では、開催地及び主催者挨拶として、リンポポ州の Stanley Mathabatha 代表、南アフリカ大学学長の Puleng LenkaBula 教授、リンポポ州観光局の K A Dipela 議長、Dong Qing IASIA 会長、Ra'ed BenShams IIAS 会長から挨拶があり、大会報告者代表の Werner Webb 南アフリカ大学教授から本大会の研究概要についての報告がなされた。

続いて開催された「行政と第 4 次産業革命 (Public Administration & Industry 4.0/4IR)」においては本大会メインテーマである第 4 次産業革命への行政の対応について、Senzo Mchunu 南アフリカ共和国政府公共サービス及び行政担当大臣により基調講演がなされ、これを踏まえて討論がなされた。

・ 大陸間フォーラム

大陸間フォーラムでは、第 4 次産業革命の活用及びリスク軽減を目指す国家戦略についての議論がなされた。東京大学公共政策大学院の城山英明教授、中国行政改革協会の Manchuan Wang 副会長、コロンビア大学新研究院の Julia Puaschunder 博士、南アフリカ市町村協会の Xolile George 氏により議論がなされた。

・ ブレバン記念講演

IIAS の研究大会においては、毎年世界的な研究者や行政実務経験者による講演が行われており、この講演は第 1 回の 2002 年に講演したフランス国務院 (Conseil d'État) の Guy Braibant 教授にちなみ「ブレバン記念講演 (Braibant Lecture)」と呼ばれている。過去には、中邨章明治大学政治経済学部教授 (現明治大学名誉教授) が 2010 年の大会で「東アジアにおける一つのディシプリンとしての行政研究：比較の視座による過去の成果と今後の方向性 (The Study of Public Administration as a Discipline in East Asia: Past Achievements and Future Directions from a Comparative Perspective)」と題する講演を行っている。

2021 年のブレバン記念講演は、国際連合経済社会局公共機関・電子政府部門 (The Division for Public Institutions and Digital Government (DPIDG) of United Nations Department of Economic and Social Affairs (UNDESA)) の公共サービス改革部門長の John-Mary Kauzya 博士により、「アフリカ、グローバルガバナンス、行政とリーダーシップ (Africa, Global Governance, Public Administration and Leadership)」と題した講演がなされた。

・ 閉会式

本大会最終日に開催された閉会式では、大会開催関係者による謝辞の他、報告者代表の Webb 教授から、本大会のメインテーマに関する各分科会の内容の紹介がなされた。

(3) 分科会

本大会においては数多くの分科会が置かれ、様々な議論が交わされた。例年の大会では大会に提出・採択・報告された論文数等について後日報告がなされているが、本大会に関する詳細は現時点では不明である。なお、2021年4月時点での報告申込者は394人であった¹⁸。

日本関連の分科会及び各種分科会における日本からの発表者について紹介すると、縣公一郎早稲田大学教授を中心とする分科会（Japan panel）では、縣教授、上村進日本大学教授、奥田直彦総務省行政管理局行政情報システム企画課長により、日本における政府の電子政府・デジタルトランスフォーメーションについての報告がなされた¹⁹。また、その他各分科会において、小島健（福島大学）、梶原静香（特別区長会調査研究機構）、鶴田まなみ（日本学術振興会特別研究員 PD（同志社大学））、中嶋茂雄（特別区長会調査研究機構）、林嶺那（福島大学）、深谷健（武蔵野大学）、箕輪允智（東洋大学）、森川想（東京大学）の各氏がそれぞれ報告を行った²⁰。

大会においては多くの分科会が同時並行的に進められ、最大8部会が同時に開催される等常時複数の分科会が開催されている。

サブテーマ及び公開セッションの各分科会における発表者は事前に大会ウェブサイトにて報告概要及び論文を掲載することとなっており、参加者は事前、事後にこれらの論文を適宜参照することが可能となっている。本調査研究では、大会ウェブサイトに掲載された報告論文のなかで、本大会メインテーマに関係するもの及び我が国の中央政府における行政管理に有意であると考えられる論文を中心に、以下にピックアップした。なお、これらの論文は大会ウェブサイトの研究大会参加者へのみ閲覧が許されたページにて提供されているものであり、その大半が「未定稿」として引用、参照を認められていない資料である。

論文を報告の内容で大別すると、次のとおりである。

● 「行政と第4次産業革命」（本大会メインテーマ）に関係するもの

- ・ Dennis Stan Chinseu, ‘Public Administration in the Fourth Industrial Revolution’ 「第4次産業革命における行政」
- ・ Vincent-Mc-Bride, European Training Foundation, ‘Industry 4.0, framework, and platform’ 「第4次産業革命、構造及び環境」

¹⁸ 2021年4月30日付 IIAS ニュースレター。

¹⁹ 大会ウェブサイト https://www.conftool.org/iasia-iias-conference2021/index.php?page=browseSessions&form_session=168#paperID515

²⁰ 大会ウェブサイト <https://www.conftool.org/iasia-iias-conference2021/index.php?page=browseSessions&letter=all&mode=authors&type=sessions>

なお、各報告者の所属等は報告時点でのものである。

- ・ Giuseppe Andrea Primerano, ‘Public Administration and Fourth Industrial Revolution. The challenge of digital sustainability’ 「行政と第4次産業革命：デジタル持続可能性への挑戦」
- ・ Anton Brewis, ‘Training and re-training of the South African Public Service - workforce for the 4th Industrial Revolution: the training programme design’ 「南アフリカの公務員の研修と再研修—第4次産業革命のための労働力：研修プログラムのデザイン」
- ・ Shi Xinyuan, ‘Challenges and Opportunities: Chinese Civil Servant e-Learning In The Fourth Industrial Revolution’ 「課題と機会—第4次産業革命における中国公務員のeラーニング研修」
- ・ D B Jarbandhan, T Majam, ‘Data driven human resource management in the Fourth Industrial Revolution (4IR). The strategic use of HR data and data analytics for a capable South African Public Service’ 「第4次産業革命（4IR）におけるデータ主導の人的資源管理。南アフリカの有能な公共サービスのための人的資源データとデータ分析の戦略的使用」

●その他、行政管理に関するもの。

- ・ Mr DJ Nkala, ‘Analysis of the Performance Management System in the provincial Department of Public Works, Roads and Transport, Mpumalanga South Africa’ 「南アフリカ Mpumalanga 州公共事業・道路交通省における性能管理制度の分析」
- ・ Tim A. Mau and Jeremy Ernest, ‘Subnational Public Sector Leadership Competency Models in Canada’ 「カナダにおける地方公共部門リーダーシップコンピテンシーモデル」

(4) 報告内容の分析と我が国の行政管理への示唆

上記に抽出した諸論文及び本大会のメインテーマである「行政と第4次産業革命」をはじめとする本大会の諸議論を踏まえ、本大会での研究報告内容等を以下に総括する。

本大会において主として検討されたのは、第4次産業革命に行政がどう対応していくのかという点である。第4次産業革命は、単なるデジタル化ではなく、デジタル化を背景とした業務プロセスや意思決定過程の変革を目指すものであり、行政においても、単なるシステム導入に留まるものではなく、行政運営、政策立案そのものをデジタル化に合わせて変革していくことが必要となる。本報告でも取り上げたように、そこでは行政の在り方論といったものに留まらず、職員の在り方の変革・それに至る研修等といった取り組みが必要となってくる。こうした取り組みは全世界で同時に必要となってきたものであり、諸外国の事例は我が国行政にとっても大いに参考になると考えられる。

こうした第4次産業革命に限らず、行政を取り巻く環境は大きく変化している。こうした状況の中、国民・市民のニーズも様々に変化する中で、行政が対応していくことは容易ではない。我が国をはじめとする先進国においては、高齢化・高福祉化に伴う財政面負担の増大が大きな課題となっており、我が国においても「持続可能な社会保障」が議論となるなど、統治システムの維持は大きな課題となっている。さらに、IIAS の場には発展途上国の参加も多く、これらの国々では統治システムの整備自体が途上であり、システム整備だけでなく、環境の変化への対応も迫られている。さらに、本大会の対面での開催地となるはずであった南アフリカや2018年の開催国であるチュニジアのように、近年の政治変動で統治システムについて根本からの再構築を余儀されなくなった国も多い。こうした国においては、様々な行政ニーズに対して何を優先し、何に対処しつつ国民・市民のニーズにこたえるかは、統治システムの安定にもつながる重要な問題となる。

なお、本大会では、メインテーマの他、伝統的な行政管理の手法や、近年の行政学及び行政運営に大きな影響を与えてきたNPMやその後の行政管理理論に関する論考、近年我が国でも話題となることの多いガバナンスに関する論考、さらには各国において個別の行政課題にどのように対処しているか等についても様々なセッションが設けられ、数多くの報告がなされた。NPMについては、行政学研究の場では既に時代遅れのものとなりつつあり、その次の行政及び行政理論の在り方が模索されているが、現実の行政への行政理論の適用という面で考えると、まだまだNPMに基づく行政運営の手法は根強く残っている。このように、理論だけの検討ではなく、理論が現実にもどのように適用されているかについて、研究者と実務家（各国政府関係者等）が同じ場所で双方の立場から議論できるという点は、このIIASの強みである。本大会では、例年に比較するとこうした報告が少なかったが、本報告書では、これらについても数編取り上げて紹介した。メインテーマに限らず、こうした研究動向について国際学会等で収集することの意義は大きい。さらには、こうした国際学会に参加することによって、会場において海外の研究者と直接交流することの意義は極めて大きいといえる。

※総務省追記：本報告書は、公表に当たり、一部抜粋を行っている。